2009年（平成21年）
第18号
（6月15日）

# 平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　宮地啓安
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

## ５０周年記念団参（本部団体参拝）報告

５月１６～１７日、京都教会発足５０周年を記念し感謝のお礼参りとこれからの精進をお誓いする本部団参が行われた。東京ディズニーランドや東京タワー見学を経由した人、バスや新幹線、自家用車で東京まで来た人、関東に在住し本部で合流する人など、９６０人が集まった。

参加者のうち６割が家族連れで、５０周年を期して取り組んできた「絆づくり」の成果があらわれていた。そのこともあってか、今回の団参は終始、和やかな雰囲気に包まれていた。

１６日の夜間は、多くの方々のご支援を頂き、団参参加者が希望するプログラムで学ぶことが出来た。また１７日の大聖堂での式典では二人の説法者の後、泉田先生からご講話を頂いた。開祖さまからの手紙の披露、佼成育児園での園長時代の話しなど大変わかり易くありがたいものだった。

１１月１日には５０周年記念式典が予定されているが、この絆の輪がより広がり、多くの参加者で実施されることだろう。

熱く語る大島氏

平和憲法について語る藤末氏

食堂は京都の会員でいっぱい

食堂のお役も京都の会員です

滝瀬元教会長さんの法座

式典中の子供コーナー

## ‘０９アフリカへ毛布をおくる運動

◆ アフリカへ向けて３５６枚の毛布を発送

５月３１日、京都教会において、青年部員たちが集まり、「アフリカへ毛布をおくる運動」に寄せられた毛布３５６枚の発送式が行われた。

１９８４年に始まった同運動も４半世紀を迎える。佼成会も同運動の構成メンバーとして、全国の会員が中心となり、市民に協力を得て、毎年、この時期に実施してきた。

当初はマスコミも大々的に取り上げたものだが、最近はほとんど話題に上がらないことから、やや低調なところもある。京都でも、以前は約１０００枚の毛布が集まっていたが、今年は記念団参が重なったこともあり、集まった毛布は例年より少なかった。

しかし、その１枚、１枚には心のこもったメッセージが書かれた白布が縫付けられた毛布を積み込んだトラックに、手を振って見送る青年たちの姿が印象的だった。無事にアフリカのみなさんに毛布が届きますようにと。

青年たちは、「アフリカで毛布を作る方がコストもかからず、手渡せる。でもこの運動は毛布だけでなく、心も共におくることに意味がある。」と話し合い、この運動の大切さを確認した。

この運動の精神が次の世代にも受け継がれ、世界平和の担い手に育っていくことが最も重要なことだ。

## 時事刻々

全盲のピアニスト、辻井伸行氏が第十三回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで、二十歳にして日本人で初の優勝を果たしたニュースが日本中を駆け巡った。昨今、暗い話題ばかりが続く中、久しぶりの明るい話だ。

帰国した辻井氏は、両親や恩師の支えに感謝の気持ちを述べていた。特に、ここまで育て上げたご両親の喜びは言葉では表せないだろう。

以前、盲目の人と一緒に食事した人の話を聞いた。いきなり停電になったが、目が見えない人は平然と食事をしていた。当然、目の見える人は何も手につかなかったという。そして、「目が見える君は不自由だね」と言われたそうだ。

ハンディを乗り越えて、栄冠を手にした辻井氏。これから予定されている彼の演奏会には多くの人が押し寄せることだろう。そして、大いなる勇気を得ることだろう。

**２００９年京都教会は発足５０周年を迎えます。私たちは『多くの方との“絆”をより深めよう』をテーマに修行精進します。**

# 諸宗教対話　～開祖の願いをこの京都の地に～

## 清水寺にて　坂上田村麻呂千二百年遠忌法要実施

北法相宗大本山清水寺（京都市東山区）の御開帳を慶讃する本会の法要が５月２４日、森清範同寺貫主臨席のもと同寺本堂で営まれた。本会から渡邊恭位理事長、川端健之総務局長をはじめ、近畿ブロック６教会の教会長、会員合わせて約１４０人が参列した。

同寺では今年、「花山法皇１千年大遠忌」にあたり本堂御本尊の御開帳を、また「坂上田村麻呂公１千２百年御遠忌」にあたり田村堂（開山堂）の御開扉をそれぞれ行っている。花山法皇は西国巡礼中興の祖といわれ、西国第１６番札所の同寺とゆかりが深い。また、坂上田村麻呂公は同寺創建の本願者として知られる。

同寺と本会は、同寺元貫主の大西良慶貌下と庭野日敬開祖の出遭いを機に、長年交流が続いている。これまでも平成１２年、同１５年の御開帳にあたり、本会の法要が執り行われ、それぞれ当時理事長だった酒井教雄参務、山野井克典顧問が導師を務めた。

あいさつに立った渡邊理事長は、慶讃法要への謝意を表したあと、同寺と本会の交流に触れながら、「このような尊きご縁にお導きくださったみ仏さまに感謝させて頂きます」と述べた。

法要後、事務所洗心洞で直会(なおかい)が行われ、森貫主が「このように立派に、しかもご丁寧に法要を務めて頂きましたことは誠に有り難いご縁です。この縁をさらに深め、皆さんの本願である、人々に仏心を植え育てて頂きますことを切に念願いたします」と述べた。　　－佼成新聞６月７日号より抜粋－

# 私のほのぼの日記（京都佼成議員懇話会に参加いただいている議員さん方のコーナーです）

## 星の王子さまの教訓

京都市議会　山本　ひろふみ

去る５月１６日夕刻、小雨降る京都を出発し、夜９時半、東京都杉並区の第二団参会館に到着しました。いつもお世話になっている会員の皆様と笑顔の対面を果たし、その日は就寝（同室になった皆様にはイビキでご迷惑をおかけしました）。翌日、待望の本部参拝を果たしました。波羅蜜橋、大聖堂、そして何よりも教会発足５０周年記念団参に参加できたことを嬉しく思うとともに、家族のあり方、人を想う気持ちの尊さなど多くの学びを頂戴したことに心より感謝致します。

「星の王子さま」の著者サン・テグジュペリは著者「人間の大地」の中で「愛とは、お互いに向き合う事ではなく、お互いに同じ方向を見つめる事だ」と記しています。愛のある政治とは住民と理解し合い、同じ目標に向かって、共に行動することだと肝に銘じ、今生きる市民と未来の京都の為に活動してまいります。

## コミュニケーション能力

京都府議会　安田　守

子どもの頃に本で読んだ「空中を車が飛ぶように走る未来」は未だ実現していませんが、日本、いや世界中の何処に居ても携帯電話がつながる時代が来ることは、私が子どもの頃には想像できなかった未来の一つです。友達の家に電話をかける時に「お父さんが出たらどうしよう・・」と妙な緊張をしていたのを懐かしく思い出します。

今では携帯電話で直接話をすることが当たり前になり、インターネットの有害情報に子ども達がアクセスできる事が問題になっています。しかし私は、本来なら直接会って話をし、雰囲気や言葉のニュアンスを感じ取りながら身につける「コミュニケーション能力」が育っていない事こそが問題だと考えています。人生の大半を携帯電話無しで過ごしてきた我々の世代が、この現状を見過ごさず改善しなければなりません。

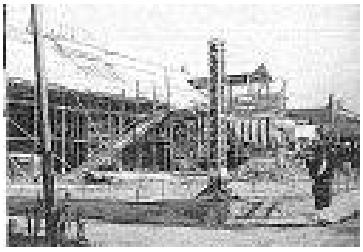
# 他教団活動紹介　（中外日報６月６日より）

**●戸津説法師　濱名徳永氏**

天台座主への登竜門とされる今年の戸津説法師に、南総教区の濱名徳永・観音教寺（千葉県山武郡芝山町）住職(80)が４日、選ばれた。

戸津説法は宗祖伝教大師が父母の孝養のため、民衆に法華経を分かりやすく説いたのが始まりとされ、８月２１日から５日間、大津市下坂本の東南寺で行われる。

# 京都教会　あの日あの時



昭和３６年２月

昭和３６年１月に地鎮祭を挙行し南区唐橋に建築面積１５０坪の新道場（旧京都教会）の建設が始まった。延べ２千余名の会員が穴掘りや壁土練り、瓦運びなどの奉仕作業に携わった。

５０年前（１９５９年）の出来事：プロ野球初の天覧試合、巨人対阪神戦が行われ長嶋茂雄さんがサヨナラ・ホームランを打ちました。

## 仏教を生活に生かす　「日常生活の中の仏さまの教え」

《　一切のお手配　‥‥　方便　》

庭野開祖は*「立正佼成会の教えは、ひと言でいうと仏になる教えです」*と言われました。あるご夫婦に、耳の聞こえない子供が生まれました。母親は〈この子は仏さまからの授かりもの。愛情を持って育てるのが私の役目〉と受け止めていました。しかし父親は、〈なぜなのか‥‥。この子をどう育てていけばいいのか〉と悩み、幹部さんにうかがいました。すると「子供のことで悩むのは、あなたがかつてしてきた親不孝の懺悔(サンゲ)ですよ」と言われました。

たしかに若くして故郷を離れ、両親に心配をかけた親不孝者だと思いました。自分が親になったいま、やっと親の思いが理解でき、お詫びができる時が来たのかもしれません。理屈では分かりました。でも心から納得できません。どうしても心が重いままなのです。

そこで庭野開祖にうかがってみました。するとひと言*「その子を育てながら、夫婦で仏になればいいんだよ。*庭野開祖のこのひと言で、すっきりと目が覚めました。*〈そうだ、この世に生きて行く目的は、仏になること。この子を授かったことも含めて、生きている間に起こることすべてが、仏になるための縁だった〉*と、父親は心の底から分かったのです。まさに母親の受け止めたように、仏さまから頂いたこの子に愛情をかけて育てながら、自らが仏になるのです。

仏になるのが目的なら、心を清らかにしなければいけません。そう思えたとき、幹部さんの言う通り、自分自身を振り返り、懺悔していくことが大切だと思えました。庭野開祖はその後にもうひと言、声をかけました。*「理由は分からないけれども、その子を本当に幸せな気持ちにするように、真心を込めて育てなさい。そうすると必ず、だんだんに本当の理由が分かってくるよ」*

その後も、耳が聞こえないためにいじめられたり、また、学校の選択や就職など課題はたくさんありましたが、問題に直面するたびに庭野開祖の言葉を思い起こし、*〈このことを通して仏になるんだ〉*と心して取り組むことができたそうです。そして、その子は、両親の深い愛情によって一日も休むことなく学校へ通い、大学に進んで、いまは就職して、元気に働いています。耳の聞こえない子を授かった本当の理由とは、父親をはじめ、その子とふれ合うまわりの人すべてを幸せに導いていこうという〝仏さまのお手配〟だったということなのではないでしょうか。

*そのとき、その場、その人にふさわしく真実へ導いてくれる縁、それが「方便」です。*人生に起こることすべてが方便であるとすれば、それをすべて生かそうと努力することが、仏さまの願いの通りに生きることであり、真理へつながる道なのです。本当に仏さまの願いを理解したとき、目の前にある問題を超えて行くことができるのです。

## 庭野開祖の宗教観・平和観　「一乗の道」

《　つらい旅(上)　》

「宗教者が集まって会議を開いてみたところで、巨大な軍事力の前にはひとたまりもないのではないか」世界会議への呼びかけでかけまわっているとき、庭野開祖は様々な所でこの質問をつきつけられた。世界宗教者平和会議(WCRP)の活動を続ける宗教指導者の中にも「非暴力をかかげる宗教者に戦争を防ぐ力があるのだろうか。現実に強大な武力にものをいわせている国があるのに、こちらが武力を持たずにいるのでは、相手のなすがままになるしかない。力を持たなくては世界の正義が踏みにじられることになるのではないか」と考える人たちもいる。

それは一人の心の中の葛藤だけでなく、その迷いを振り切れずに堂々巡りをくり返しているのが世界の現実であり、その困難な問題に取り組んでいる国際的組織が国際連合だといえるだろう。WCRP としての国連への本格的な働きかけは、京都会議の翌年の昭和四十六年二月から始められた。会議の議事録・決定事項・会議宣言などを国連に提出し、その年の秋の第二十六回国連総会にオブザーバーを派遣した。

庭野開祖もその年の十一月、第二回世界会議開催について討議する役員会がニューヨークで開かれた折に国連を訪れ、WCRP の活動について説明し協力を要請した。そのニューヨークでの役員会に出席するための二週間の旅が、忘れることのできないつらい旅になったのであった。十月二十七日、羽田空港から出発しようと機に乗り込む直前、佼成病院の事務長から「たったいま、十分ほど前に泉田さんが亡くなられました」と連絡が入った。心筋梗塞だった。

泉田和男は、庭野開祖の三女・泉田佳子の夫である。つい二日前も親族が集まって、妻・直子の誕生日とアメリカ行きの壮行会をかねて夕食会を開いた時も、元気な姿でお酒をついでまわっていた。搭乗する機の出発を告げるアナウンスが響き、庭野開祖は立ち上がった。見送りの人たちは、まだ誰も知らない。「皆さん、行ってまいります」と、手を振って機内に向かった。佳子は、八歳の長男、七歳の次男、そして生後十ヶ月の三男と、幼い子供三人をかかえていた。戦時中、妻・直子と六人の子供が故郷の菅沼に疎開して行った時、佳子は小学三年生だった。　(つづく)

## ここが聞きたい！「藤末さんと語る」

毎回、平安月報をお読みいただきありがとございます。本紙発行の趣旨に沿って、平安な世の中を実現するために、私たちが何をすればよいのか、どう実践すべきなのか、各界の方にお聞きして、ご回答いただくというコーナーを新設しました。今回は、その１回目です。是非、ご覧いただきたいと存じます。（編集長）

Ｑ：藤末さんが議員活動されている上で今、問題だと考えられていることを教えてください。

### ■生命の大切さ　　臓器移植の問題について

臓器移植は、臓器提供者（ドナー）である一人の人間の死を前提として行われる特殊な医療行為であり、「ドナーの基本的人権や自己決定権」を尊重しなければならないと考えます。現在、国会に４つの臓器移植法改正案が提出されていますが、国会議員だけの議論ではなく、もっと国民的な議論を深めていかなければなりません。

### ■平和の大切さ　平和憲法の精神と国民の果たすべき役割

私は「活憲：平和憲法の理念を活かす」という考え方を提唱しています。それは、「戦争をしない、軍隊をもたない」と決めた憲法九条だけでなく、「全世界の人々が平和に生きられるようにする」「ひとりひとりが国境をこえて信頼しあい平和をつくる」と唱えた「憲法前文」の理念を活かして「世界平和」に貢献していこうという考えです。私たちはもう一度「平和憲法の理念」を認識する必要があります。貧しい国の人たちが平和に生活し、国境もなく核兵器など武器がいらない理想の世界を実現するのが 21 世紀です。我々は平和憲法を頂いた国として真に平和な時代をつくらなければなりません。

### ■環境問題について　国民運動としての取り組み

民主党の環境対策本部の事務局次長として環境問題に取り組む企業を視察するなどして、具体的な政策を打ち出す準備をしています。山川草木という自然にも我々と同じ仏性があることを理解すべきです。「自然を守る」ではなく「自然と共に生きる（共生する）」という考えから環境問題に取り組む必要があると考えています。具体的には、ハイブリッドカー、電気自動車、太陽光発電、風力発電などの新しい技術の導入だけでなく、我々の日々の生活を環境にやさしいものに変えていくということが大切になります。

### ■裁判員制度について　人が人を裁くということ

司法制度改革の一環として始まる裁判員制度ですが、私は法律の専門家でない一般人が裁判員として有罪か無罪かだけでなく、死刑まで含む量刑まで関わるこの制度は様々な問題が出てくるのではないかと危惧しております。

裁判員が参加する事件が「重大刑事事件（殺人事件など）」とされており、裁判員に対する身体的・精神的なケアがきちんとできるのかなど、しっかりと見ていく必要があると考えます。　　（つづく）

## ダーナ創刊のお知らせ

中高年の壮年を対象としたマガジン『ダーナ』がこのほど一般書店でも購入出来るようになります。

１００年に一度と言われる大不況、それにともなう雇用不安、年齢的には体力も衰え始め、疲れのたまりがちな中高年世代…。そんな状況の中で『ダーナ』は中高年世代が元気に生きていける知恵を、ともに考え、お伝えさせて頂きます。

９月１５日創刊、隔月発行で只今年間購読申し込みキャンペーンを実施しています。通常年間６冊分２７００円(350 円×６＋送料 600 円)のところ特別割引１８００円(送料サービス)です。合わせて申し込み者の中から抽選で１００名の方にインド仏跡６日間の旅をはじめ温泉ペア宿泊券など豪華プレゼントが当たります。８月３１日(インド旅行のみ７月３１日)までの申し込みですのでご希望の方は宮地渉外部長まで。

### 渉外部からのメッセージ

５０周年の記念団参では直接的に参加するだけではなく、行きたくても行けない人の『代参』という言葉がありました。行けない事情は様々ですが行く人に想いや願いを託し東京の本部大聖堂のご本尊さまに届けてもらうというものです。ある婦人部員さんが行けない事を知り、お子さんに対する願いを届けてほしいとメッセージを預かりました。『気持ち』だけ何時にここに集合してねと連絡を取り合い、１７日の式典に合わせて自宅でご供養もされたそうです。目の前の人も目の前にいない人も大事にしていきたいと思います。

**京都教会のブログに教会長の毎月のことばを掲載しています。**http://rkk-kinki.blog.ocn.ne.jp/kyoto/